

# 令和4年度こんにやく原料需給計画

(単位:精粉20kg/袋)

項目	需要量 (消費量)	供給量					期末在荷量
		期初在荷量	国内生産量		輸入量	供給量合計	
			生産量	春切り量			
年度(R.4.11~R5.10)							
計画値計算式	a:注2①参照	b:前年期末	c:実績	d	e:注2⑤⑦参照	f=b+c+d+e	g=f-a
原料(国内・輸入)数量見込	231,900	273,100	233,800	2,500	10,800	520,200	288,200
(前年度実績)	253,800	266,800	244,100	2,000	13,900	526,800	273,100
製品 輸入数量見込	17,900				17,900	17,900	
(前年度実績)	18,500				18,500	18,500	
合計	249,800	273,100	233,800	2,500	28,700	538,000	288,200
(前年度実績)	272,300	266,800	244,100	2,000	32,400	545,400	273,100
前年比(%)	91.7%	102.3%	95.8%	125.0%	88.5%	98.7%	105.6%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおり。なお、算出方法は各年度に必要な見直しを行い21年度まで遡って再計算しているため過去の発表数値とは連続しない。

①期初在荷量は、令和3年度期末在荷量273,100袋とした。

②生産量は、令和4年産(51,900トン)から算出 $(51,900 \times 1,000 \times \text{歩留}(9.009\%) \div 20\text{kg})$ し、233,800袋と見込んだ。

③春切り量は、2,500袋と見込んだ。

④原料輸入量は内外価格差が開いたこともあって令和2年度から増加に転じ、3年度は前年比2倍以上増加した。4年度(11月~10月)はセーフガード年度(4~3月)累積が11月までで発令枠の156トン近くになり12月以降輸入がストップしているが、セーフガード年度の始まる4月以降は新たな発令枠209トン(過去3か年暦年実績平均)で輸入が再開し、枠いっぱい輸入が見込まれることから、これに11月実績の7.5トンを加えて $(209+7.5) \times 1000 \div 20$  10,800袋とした。

⑤製品輸入数量は原料輸入量と同様に、令和4年11月から翌1月における3ヶ月間の輸入実績の前年同期比増減率-3.7%を前年度1年間の製品輸入量に乗じて17,900袋とした。

⑥合計需要量は平成21~令和3年度の実績を基に回帰分析によりトレンドでR4年度を249,800袋推計した。原料需要量は合計需要量から製品需要量(=製品輸入量)を引いて $(249,800 - 17,900)$ 、231,900袋とした。

⑦期末在荷量は、原料供給量合計(520,200袋)から原料需要量(231,900袋)を差し引いて288,200袋とした。